冷媒配管用継手（新冷媒:R32,R410A）

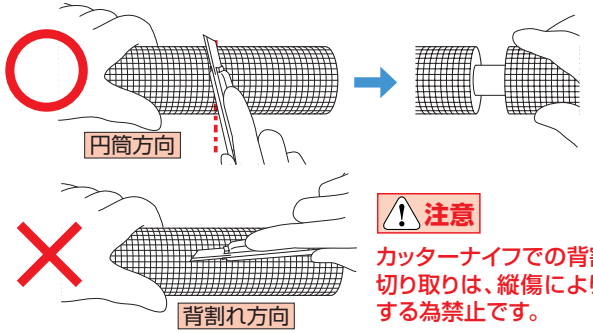
おっぞん® 施工要領書

・初めての方は、必ず施工講習を受けてください。
・施工前には、必ずこの要領書をお読みください。

⚠警告	取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、死亡または重傷を受ける可能性と同時に物的損害の発生が想定される場合。
⚠注意	取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、中程度の傷害や軽傷を受ける可能性、及び物的損害の発生が想定される場合。

1 管保温材の切除

管に傷がつかないよう注意し、保温材を円筒状に切除してください。

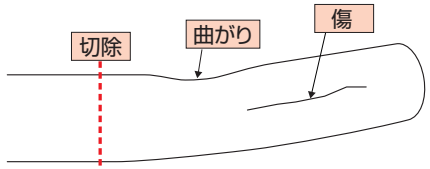


⚠注意

カッターナイフでの背割れ方向の切り取りは、縦傷により冷媒漏れする為禁止です。

2 管の確認

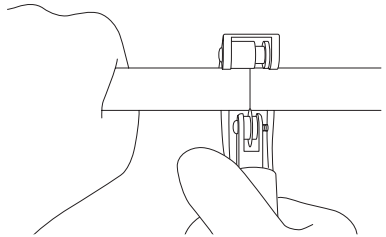
①継手挿入部に傷・曲がり・扁平・熱劣化がある場合は切除してください。
②内外面に異物が付着している場合は、除去してください。



・管の曲がり、扁平の限度は継手に無理なく奥まで差込みが出来る範囲です。
・酸化被膜の付いた管を接続する際は、#1000以上の耐水ペーパーで管表面を円周方向に磨いて酸化被膜を除去してください。

3 管の切断

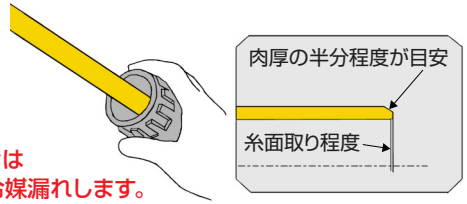
ローラーカッターを使用して直角に切断してください。



変形防止の為、徐々に切り込んでください。

4 管の面取り

①外面取り：肉厚の半分程度を目安に行ってください。
②内面取り：カエリが無くなるまで行ってください。



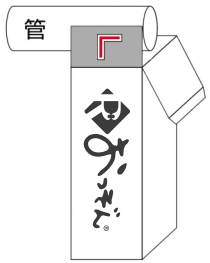
⚠注意

・外面取りが無い場合はパッキンを損傷し、冷媒漏れします。
・冷媒流量確保のため内面取りも実施ください。12.7はインコア内蔵型です。面取り不足の場合、差し込むことができません。また、コアを損傷させる恐れもあります。
・面取り時は配管内部に異物が入らないよう、管端を下に向けて面取りを行ってください。万一異物が内部に入った場合は取り除いてください。

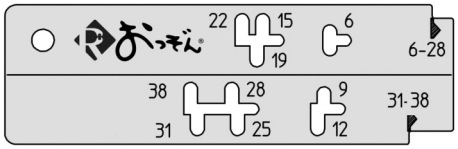
5 マーキング

同径（異径）継手の個装箱の型紙、または樹脂製マーキングゲージで銅管の所定位置にT字型又はL字型の差込標線を枠内一杯に塗り潰して記入ください。

〈個装箱型紙〉



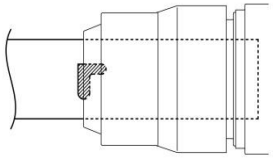
〈樹脂製マーキングゲージ〉



※使用サイズに応じた位置でご使用ください。

6 管の差込み

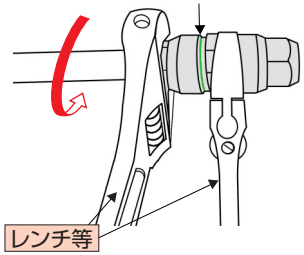
差込標線が継手端面に到達するまで真っ直ぐに差し込んでください。



・斜め挿入は管の傷付きやパッキンの損傷による冷媒漏れを招くため禁止です。
・工具で叩いての挿入は禁止です。
・管を差し込む前のナット締込みは厳禁です。
・落下させた継手は使用しないでください。

7 ナット締込み

モンキーレンチで継手本体を固定（本体を回さない）し、ナットを矢印の方向に緑色のインジケータが見えなくなるまで締め込んでください。



⚠注意

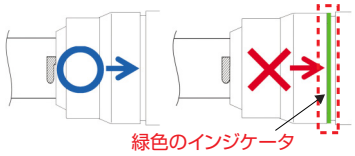
緑色のインジケータが見えなくなれば締込みを終了してください。
過度な締込みはしないでください。

⚠警告

締込み不足はナットの緩みや、ナットの緩みに起因する継手性能の低下を招くため禁止です。ナットを緩める方向に回転させないでください。

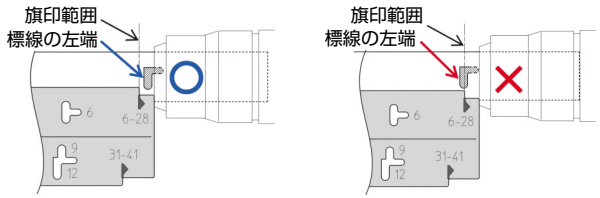
8 接続完了確認

1）ナットの締込み → 緑色のインジケータが見えないことを確認する。



2）差込標線の位置

→ナット端面にマーキングゲージを当て、標線の左端の位置がマーキングゲージの旗印以内であることを確認する。
✕の場合接合部を切除し新しい継手に取り換えて再度施工してください。



9 気密試験

使用される機器メーカーの施工・管理マニュアルに基づき実施してください。

10 保温処理は裏面に記載しています。

◆本体からナットを外したまま放置しないこと。
異物の付着防止、Claw Biting部の保護のため
◆継手を接合した後に過度のねじりを加えないでください。
◆近傍で溶接する場合は200mm以上の距離を取り濡れ雑巾などで継手部への熱伝導を防止ください。
◆ベンダーによる曲げ傷が付いている部分には接合できません。
漏れが発生する恐れのため
◆呼びサイズ31と38のソケットは、ナットを締め込みすると緩み止めリングがナットをロックするため、ナットを外すことは出来ません。ご注意ください。

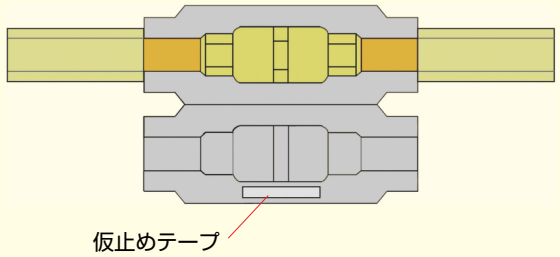
東尾メック株式会社
http://www.mech.co.jp/

同梱包の専用保温材を **必ず** 使用してください。

⑩ 保温処理

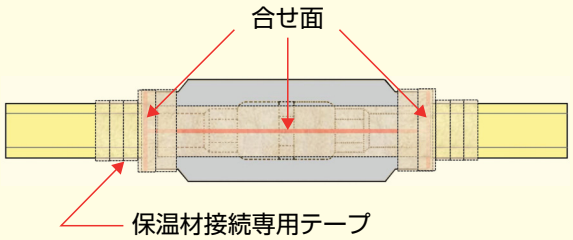
1）保温材のセット

継手専用保温材の仮止めテープの剥離紙を剥がし、継手外周部にセットしてください。
管保温材の端部と隙間が空く場合は、別材を充填して埋めてください。



2）保温材の接続

継手専用保温材及び管保温材との合せ面を接着剤または保温材接続専用テープを使用して固定してください。
異径継手では、継手専用保温材との合わせ面の段差が大きくなる場合がありますので、隙間が無いように固定してください。

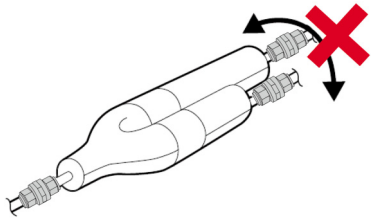


ご注意

保温材の厚さは20mmです。
管の保温材が10mmでも、継手部は、安全の確保のため、専用の20mm保温材を必ず使用してください。
保温材に隙間が空いていると、結露して水が落ちるおそれがあります。

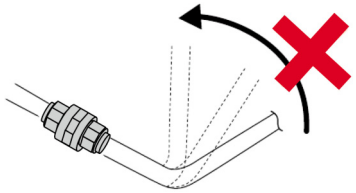
接合後の注意事項

分岐管を接続する場合



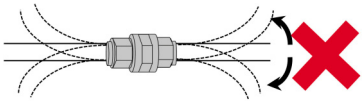
締付け後は分岐管を過度に回転させないでください。

曲げ配管を接続する場合



曲げ配管側に継手を接続したうえで、配管との接続を行ってください。
締付け後に配管の向きを過度に変えて、ねじらないでください。

接続後の配管曲げ



継手、配管に曲げ応力を加えないでください。

	禁止事項	理　由	自己チェック
Ⅰ	保温材のカッターナイフでの背割り	銅管に傷を付けて冷媒漏れの恐れがある	
Ⅱ	銅管の外面取りが無いこと	パッキンを傷付けて冷媒漏れの起きる恐れがある	
Ⅲ	差込標線が無いまま銅管を差込むこと	差込み不足の異常が発見できず、冷媒漏れの起きる恐れがある	
Ⅳ	緑のインジケーターが、見えている状態で放置すること	継手性能の不足により脱管する恐れがある	
Ⅴ	ナットが締められているが差し込み標線が見えない状態で放置すること	標準施工されていないので、冷媒漏れや、脱管の恐れがある	
Ⅵ	継手を分解すること	継手性能が発揮しない状態となり脱管や冷媒漏れの恐れがある	